

❖ 当院では『甲状腺クリーゼ：多施設前向きレジストリー研究』に情報を提供しています。

甲状腺クリーゼ：多施設前向きレジストリー研究

1. 情報の対象

当院において甲状腺クリーゼと診断された症例

2. 研究背景とその目的

コントロール不良な甲状腺機能中毒症では、感染、手術、ストレスを誘因として高熱、循環不全、ショック、意識障害などを来し、生命の危険（致死率 10%以上）を伴う場合があります。このような生命を脅かす甲状腺中毒状態は甲状腺クリーゼと呼ばれています。発症機序は不明であり、臨床的所見によって定義されています。多臓器における非代償性状態を特徴とし、高熱、循環不全、意識障害、下痢、黄疸などを呈します。的確に甲状腺クリーゼを診断し、早期に治療を開始することが肝要であります。我が国においては、年間約 150 例発症し、致死率は 10%以上であります。後遺症として、不可逆的な神経学的障害（低酸素性脳症、廃用性萎縮、脳血管障害、精神症）が少なからず認められます。赤水研究班では、「甲状腺クリーゼ診療ガイドライン 2017」を作成しました。この診療ガイドラインの有用性を検証するとともに、甲状腺クリーゼの予後に影響する要因を解明することを目的に、甲状腺クリーゼの多施設前向きレジストリー研究を実施します。

3. 調査の内容

全国の協力医療機関から診療情報を収集します。

対象となる患者さまの診療情報は、各協力医療機関において匿名化します。米国 Vanderbilt 大学が開発したデータ集積管理システムである REDCap を愛媛大学大学院医学系研究科内に設置し、適切な管理のもと、各協力医療機関はオンラインで REDCap にデータを入力します。

4. その他 詳細

研究については、愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座のホームページ (<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/publichealth/project.php>) でも公開しています。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

【 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 】

〒596-8522 大阪府岸和田市加守町 4-27-1 072-445-9915（代表）

岸和田徳洲会病院

臨床試験センター

【 当院における責任者 】

岸和田徳洲会病院 循環器内科 築澤智文
072-445-9915（代表）

【 研究代表者 】

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学講座
教授 三宅吉博
〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454

2019年3月6日作成